

金沢大学 出石 康子

洗濯時に汚染布をあらかじめ浸漬する方がよいか否かの問題は最近種々論ぜられているが、私は今回は浸漬を単に洗浄効率の面のみでなく、浸漬の強伸度に及ぼす影響、浸漬中の雑菌の消長、洗濯廃液に浸漬した場合の再汚染の状態などの面も併せて考察した。なお浸漬するとすればどれ程の時間をどの様に取り扱ったらよいか、どんな条件では浸漬が害がありどんな時に効果的かを験した。

猶汚染の指標としては染色堅牢度試験の汗の試験に準じた人工汗、染料、人体よりの自然の汚れをとった。標準汚染布はこれによる「浸漬の洗浄効果に及ぼす影響」に関する報告があるので、重ねて実験することをさげ結果をそのまま肯定して論をすゝめた。